

編集後記

(59巻 第2号 2013年2月)

政治などの堅い内容の編集後記が多かったので、今回はすこし柔らかい話をしたい。私自身はテレビ好き、映画好きだが、アニメも実は大好きである。最近は忙しいのであまり接する機会が無いが、かつては「ドカベン」「美味しんぼ」さらには「ベルサイユのばら」などの少女アニメまで全巻を読破した。今や日本の代表文化「アニメ」であるが、楽しいだけではなく勉強になることも多い。

一番好きなアニメである「北斗の拳」のなかに「水影心: すいえいしん」という奥義が出てくる。主人公のケンシロウが使う技で、一度対戦した相手の技はすべて自分のものにするというとんでもない奥義である。しかし、これはわれわれ外科医にとっては、なんとしても身につけたい奥義である。外科手技というのはきわめて実践練習がしにくい。一度でも手術に入ったなら、見ただけの手技でさえも自分のものにする能力が必要である。泌尿器科のカンファレンスでは教室員に「水影心」を説いている。そして、教授室には教室員から寄贈されたラオウとケンシロウのフィギュアが飾ってある。

(小川 修)